

## 2003年12月号 砂糖の甘い罠

NI No.363 December 2003  
Sugar

<内容>  
(本文は英語です)

### 罠からの脱出

砂糖は初めての消費財だったが、今では企業のグローバル化による害悪の広がりを支えている。

### 危険な快楽

糖分が身体に及ぼす影響。

### 砂糖の支配

世界最大の砂糖生産国・インドで人々にのしかかる厳しい現実。

### 中毒という妖怪

摂食障害と砂糖の関係。

### 砂糖 その事実

#### カンクンでの苦い出来事

メキシコで行われたひどい貿易交渉からの報告。

#### 我々の土地を返せ

砂糖のせいで、フィリピンの村人達の土地が強制収用されている。その土地を取り戻そうとする人々の報告。

#### 破壊の進むエバークレース

フロリダ州エバークレースで、過酷な重労働を強いた砂糖会社。そして、今は環境破壊が大きな問題となっている。

#### 汚れたビジネス

砂糖精製工場による公害被害。エチオピアの町の現状をめぐり、ぶつかり合うかつての住人とオランダの砂糖会社の本部長。

#### 砂糖と奴隷

一緒になって歴史を歩んできた砂糖と奴隷をふりかえる。

#### オーストラリアの砂糖産業を支えた人々

あまり語られることの無かった南太平洋の人々の苦勞の歴史。

\*\*\*その他、世界の情勢を伝えるニュースやリポートも掲載\*\*\*



砂糖の歴史は長く、悪評に満ちている。奴隷と砂糖は、ヨーロッパ帝国拡大の資金源となった。そしてこのふたつが一緒になって、資本主義に命を吹き込んだ。精製された砂糖は、栄養価がまったく無いにもかかわらず、「消費者向け」製品としては最初のぜいたく品となった。最近メキシコのカンクンで開かれた世界貿易機関閣僚会議は決裂して幕を閉じたが、その複雑で不公正な舞台裏を象徴するものが、今日南の国々で栽培されるさとうきびである。砂糖は、肥満や糖尿病を含む世界に広がる食生活関連の病気にとって、最も関わりの深い原因物質のひとつである。

来月のNIは、食料というよりも麻薬のような砂糖中毒について、消費者と生産者双方の診断を試みる。

NI-Japan No.51 2003年12月号

## 砂糖の甘い罠

<内容>  
(本文は日本語、一部英語です)

### < 今月のNI本誌記事の翻訳 >

罠からの脱出 (Nlp9-12)

危険な快楽 (Nlp13)

砂糖 その事実 (Nlp18-19)

### < Reporting from Japan >

日本の砂糖 その事実

### < Contact Points >

砂糖のことをもっと良く知るための情報源

～見に行く、調べる、フェアトレード

### < Country Profile >

「世界の国のプロフィール - ソマリランド」

(NI本誌p36の翻訳)



NI (英語版、A4サイズカラー、約40ページ) と日本編集のNI-Japan(日本語、A4サイズモノクロ、12ページ)をセットでお届けします。

### 【年間購読(1・2月号は合併号のため年11回発行)】

1年間 10,500円(送料、消費税込み)

2年間 19,000円(送料、消費税込み)

### 【お試用最新号またはバックナンバー】

1,000円(送料、消費税込み)

\* ホームページでは、購読お申し込みやバックナンバー照会、無料メールマガジン申し込み等がご利用頂けます。



< お問い合わせ・お申し込み >

有限会社インティリンクス

〒193-0843 東京都八王子市甘里町46-2

Tel / Fax : 0426-29-4863

E-mail : info@ni-japan.com

URL http://www.ni-japan.com/